

平成23年度 自己評価表および学校関係者評価

教育方針：教育基本法及び学校教育法の精神に則り、高等学校通信制の課程(普通科・単位制)の特色を生かした教育を進め、豊かな人間性と自律・自立の力を養い、人のため、社会のために貢献する人間を育成する。

- 重点努力目標：① 生きる力の育成(サンキューレターの実践、長期目標設定シートの活用、基本的生活習慣の指導の徹底、充実した学校行事、人権教育および健康・安全教育の推進、家庭との密な連携)
 ② 確かな学力の育成(分かる授業の徹底と基礎学力の定着、早めのレポート完成、コースに応じた学力の育成、学力に応じた一人ひとりを大切に指導の徹底、授業録画ビデオによる研修)
 ③ キャリア教育の推進(正しい職業観・勤労観の育成、長期目標設定シートにより将来を設計、進学・就職指導の充実、保護者と連携した進路指導、資格取得検定合格、専門学校との連携)

				学校関係者評価	
				実施日平成24年1月18日	
領域	項目	具体的取組目標	目標達成状況・評価	評価・提言等	次年度改善策
学習指導	教科指導の充実	生徒のレベルに応じた分かりやすい授業を行う。	各教員とも目標達成の意識を持って取り組んでいる。生徒も習熟度授業への参加へは積極的に行っている。レポート等の作成には困難を示している。改善点をあげながら継続して努力していく必要がある。	・今後も不登校生は増加傾向にある中、高等学校の受け入れの門は狭くなってきているように感じる。未来高校の学習システムと受け入れ態勢は安心感をもって、勤められる。 ・様々な状況の結果不登校になっている生徒への対応は困難を要するが、粘り強く取り組んで欲しい。 (取り組み目標以外の提言) ・格差社会で家庭の経済状況にもその格差が出ている。地元で不登校が進学先として選択できる学校は限られている。将来的に学費を抑えて欲しい。 ・体力低下における学校生活の継続へ難色を示す生徒が出ているのではなかろうか。運動を行える環境を充実させて欲しい。	現状を継続し、習熟度及び教科内での学習格差への対応を考慮する。また、レポート補習等の補完的な内容を充実させる。 行事等での生徒主体の企画運営の定着を授業内でも生かせるよう発表等生徒主体となる授業を展開する。 充実しているCPU機器ネット環境を活用したカリキュラムを各教科が作成していく。 授業力向上における研究授業をより充実させ、重点項目に沿って計画的に進めていく。
		生徒の活動を主体とした作業学習などの授業により学習意欲の向上を図る。	教師誘導型の授業展開になっている。生徒も受動的な態度に満足している傾向がある。改善すべき内容である。		
視聴覚機器を利用して指導方法の改善に努める。		活用している教員とそうでない教員に分化されている。教科での特性もあるが、主体的に活用していくべきである。改善すべき内容である。			
授業力アップのため、授業録画ビデオによる研究に努める。		各教員が計画的に授業録画、研究協議を進めることができた。努力目標に沿ってレベルアップしていく必要がある。			
	レポート指導の充実	自学自習の態度やレポート課題の提出指導に努める。	学校全体の課題として成果をあげることができた。おおむね順調である。		自学の場、レポート作成の場を多く設けると共に、率先して自己教育力を育む誘発的な指導を継続して行う。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	校則や身だしなみについて、校内のあらゆる場面で指導に当たる。	定期的な指導には全教員が徹底指導に取り組んだが、常時の言葉がけには不足感がある。継続して、努力を要する内容である。	・保護者として見ていて、年々身なり・服装よくなってきていると感じている。 ・通学型の通信制高校を売り出すことで、不登校生が入学していくことへ迷いが発生してくるのではないか。コースの特性をアピールして、対象性の選べる学校にアピールしていくべき時になっているのでは。 ・現在の若者は、見た目がだらしくても、話しかけるとしっかりしているケースもある。大人が見た目のみで判断してはいけない。 (取り組み目標以外の提言) ・地域住民として様々な社会に適応しづらい生徒を	一丸となって日常から〇×の声かけを意識する。また、指導を素直に聞き入れる生徒指導を確立する。 インターンシップや地域に協力してもらい体験行事の導入を検討していく。 本校の長所としての生徒との人間関係の構築づくりのノウハウを組織化していく。 定期的教育相談(行事予定内)以外の面談のスタイルを推進する。
		社会に必要なマナーやエチケットについて継続的な指導を行う。	教育活動全般を通して、折に触れ社会をイメージさせるよう心がけている。生徒も進路という面では具体的に意識して取り組んでいる。		
	問題行動の未然防止	日頃から、生徒と会話したり相談にのるなど信頼関係づくりに努める。	日常から気軽に教育相談が行われている。環境づくりや教員側からの声かけも意識的に行っている。質を高めることが課題と判断する内容であるが、おおむね順調である。		
		学校生活全般について、保護者との密接な連携の取れた指導を行う。	保護者への連絡・懇談等は密に行っており、保護者からの要望等も共有化しているが、一部保護者には不十分な内容もあり、改善・修正していくべき内容である。		
進路指導	進路指導の充実	進路指導計画に従って、3年間を見通した指導を行う。	進路希望の変更や転入生へのサポートが不十分である。改善・修正していくべき内容である。	・教員との距離が近く、1年次より進路相談を行っており、目標をもって進路選択と実現の努力のサポートをしてもらった。 ・社会に出たときに、学習力や体力のみでは対応できないので、在学中に心技体のバランスのとれた人格形成を意識して取り組んで欲しい。 ・卒業のみを目標にした学校ではなく、出口指導として進路まで斡旋・誘導する学校になってほしい。そのためにも進路実績に意識をもった指導をして欲しい。 (取り組み目標以外の提言) ・進路実績をあげることで、高校生活で、基本的な生活習慣を身に付け、学力や社会性を身につけたこと	漠然と進路を考える機会を多く設けているが、本年度を反省し、更なるシステムを構築していく。 進路に対して前向きな生徒へは有意義に迅速な対応がとれているが、触発からの行動力への指導が課題となる。 1年次からの進路相談を継続して行っていく。 生徒の検定受検意識も高く、保護者の満足度も高い状況を継続していく。
		生徒に対して、積極的に必要な進路情報を提供する。	外部機関からの情報は掲示板や個別に配布しており、関係作りは順調である。おおむね順調であるが、生徒の意識触発活動への改善が必要とすべき内容である。		
		進路選択に当たって3者面談等で保護者との連携を図る。	常時対応ができており、生徒・保護者の満足度も高い。おおむね順調である。		
		コースに応じて進学・就職対策を効果的に行う。	検定・模試受検のカリキュラムから意識づけにつながっている。おおむね順調である。		
特別活動その他	学校行事の充実	運動会、スキー等の行事を充実させる。	生徒主体で試行錯誤のなか、積極的に行っているが、生徒の満足度は格差がある。満足度を高めながら継続していく内容である。	・行事では、役割分担を行っており、家庭でも学校の様子をよく話す機会が見られた。 (取り組み目標以外の提言) ・考え方や身なり服装においても世代意識により理解できないところもある。それを個性尊重のもとバランスをとって分らせて欲しい。 ・部活動をつくって欲しい。体力不足の解消や有り余る元気な生徒のエネルギーの発散の場を設けて欲しい。	企画運営から携わる生徒の満足度と行事の苦手な生徒との格差を埋めるようにする。 長期目標設定シートの作成時からの有効活用のカリキュラムを作成する。
	「感謝の心」を育む	サンキューレターによって、生徒の人間性の成長を図る。	長期目標設定シートの活用により学校全体が共通理解のもと進めている。今後より精度をあげて取り組むべき内容である。		